

バンテリンドーム ナゴヤで可児の魅力を発信！

7月4日、中日-東京ヤクルト戦を市スポンサーゲーム「住みごこち一番・可児市デー」として開催しました。

試合前のセレモニアルピッチには、市内在住の浅尾美和さん(元プロビーチバレーボール選手)が登場し、見事な投球を披露。球場内では観光ガイドブックなどの配布やPRブースでのパネル展示で、来場者に市の魅力を直接伝えました。また、球団公式HPやSNSでも情報発信し、野球ファンに向け広くPRしました。

この日は、可児市出身の勝野昌慶選手が先発投手として力投し、可児市デーを盛り上げてくれました。



ばら教室KANIへ寄贈

7月8日、市内小中学校に在籍する外国籍児童生徒が日本語の基礎や、学校での約束・ルールなどを学ぶ「ばら教室KANI」に、可児ライオンズクラブから空気清浄機2台、タブレット端末3台、三脚2台、デジタルカメラ1台を寄贈いただきました。

同クラブの長谷川高志会長は「コロナ禍で頑張っている子どもたちの力になれば」と話し、ばら教室の若原室長は「昨年、第2ばら教室もできた。コロナ禍でもタブレット端末の活用で、2つの教室のオンライン交流や、日本語を楽しく学ぶための幅も広がりありがたい」と感謝を伝えました。

可児っこたち、全国大会に「いざ、出陣！」

7月9日、14日に全国大会に出場する児童生徒への激励会を行いました。

岐阜県地区別対抗水泳競技大会女子50m平泳ぎで39秒88を記録し、第44回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会の出場を決めた榊原りすさん(桜ヶ丘小4年、写真中央)は「緊張するけど、ベストが出せるように頑張ります」と話してくれました。



全日本軟式野球連盟岐阜県支部に推薦され、女子学童選抜チーム「岐阜選抜ドリームス」のピッチャーでキャプテンとしてNPBガールズトーナメント2021に出場する酒井紗也さん(今渡南小6年、写真右)は「全国制覇を目指して頑張ります」と話してくれました。

インターハイ予選で優勝し、ウエイトリフティングで全国大会への出場を決めた可児高校3年の2人。102kg超級の鈴木晴也さん(写真左から1人目)は「自分のベストの記録を出したい」、81kg級の稲垣良太さん(写真左から2人目)は「優勝目指して頑張りたい」と話してくれました。



インターハイ予選を突破し、ソフトテニス(ダブルス)で全国大会への出場を決めた可児市出身で美濃加茂高校2年の2人。予選で優勝した永江快羽さん(写真右から1人目)は「全国ベスト16以上を目指したい」、第3位に入賞した長瀬智哉さん(写真右から2人目)は「支えてくれた人に感謝してベストを尽くしたい」と話してくれました。